

ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会のあゆみ
(史資料の収集・整理・活用のとりくみの概要)

2025. 10

2011. 11. 25 発足についての記者会見（岩佐幹三・大江健三郎・安斎育郎、肥田舜太郎、司会：木戸季市）
2011. 12. 11 「ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会」発足
2012. 4 NPO 法人化
- 杉並区阿佐ヶ谷に資料準備室（物故役員の遺族からの寄贈資料などの収集・保管をはじめる）
- 2012～2017 長崎、広島、熊本の被爆者の会、関係者、資料館等に史料調査
- 2013 愛宕山弁護士ビル 4 階 407 号室借用（弁護士ご遺族より）
2013. 8. 5～ 愛宕事務所で、昭和女子大学松田忍先生の協力のもと、学生による被団協運動史料の整理作業がはじまる（はじめは段ボール約 90 箱から）。～2024. 3 計 118 回の整理会。参加者総数 125 名
2013. 9. 14 ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産の継承センター「基本構想」発表
2015. 7. 1 生活協同組合コープみらいより、コーププラザ浦和「4 階本部室」を資料室として借用
2015. 7. 23 杉並の資料準備室等から、愛宕事務所、南浦和資料庫に搬入
2015. 8. 29 南浦和資料室開設（コープ浦和 4 階、54.2 m²）。もんじょ箱の保管庫および書籍整理作業の場に
2015. 11. 14～2020. 1. 18 被爆者運動に学び合う学習懇談会（全 15 回）
2018. 6. 4 昭和女子大学「戦後史史料を後世に伝えるプロジェクト」（戦後史 PJ）発足。毎年 11 月の秋桜祭で企画展（第 1 回：被爆者に「なる」～2024. 11 「史料が語る日本被団協の歩み」。2021 年には光葉博物館で秋の特別展「被爆者の足跡—被団協関連文書の歴史的研究から—」を 1 か月余にわたり開催）
2018. 12. 15 被爆者の声を未来につなぐ公開ミーティング～「ノーモア・ヒバクシャ継承センター」の設立をめざして～（於・武蔵大学）
2021. 12. 11 設立 10 周年企画 Part I
“ノーモア・ヒバクシャ”継承の拠点を各地に
22. 3. 10 Part II 被爆者運動史料 その意義と活用～「戦後史 PJ」の 4 年

間を振り返って

22. 5. 21 Part III 「今こそ “ノーモア・ヒバクシャ” 」

2022. 10. 15 南浦和資料室 4階から2階に移設

2022. 11. 11～13 国連原爆展 in Tokyo (於・日本青年館)

2023. 3 一橋大学小平プロジェクト室より 85 原爆被害者調査および 77
シンポ一般調査の調査原票引き取り (43 箱)、当面倉庫に保管

2023. 8 オンライン「国連原爆展」(英・日) 公開

2024. 3. 31 愛宕弁護士事務所の取り壊しに伴い、南浦和資料室 (87 箱)、生
協都連会議室 (40 箱) に、愛宕事務所のもんじょ箱移転

2024. 8 各県被爆者の会発行の被爆体験記のオンライン公開開始

2024. 10. 11～ 日本被団協へのノーベル平和賞授賞により、継承する会が保管
する史資料への取材が相次ぐ

2025. 7. 19 国際シンポジウム「未来への記憶の遺産—原爆資料をどう継承
するか—」(広島) で基調講演 (日本被団協の足跡を未来につなぐ～継
承する会のとりくみと課題～)

ノルウェー・ノーベル委員会 フリードネス委員長のビデオメッセージから
私たちは学ぶことができる。記憶し、努力することができる。

被害を記録し、保存する仕事は、日本だけでなく、世界の歴史にとって極
めて重要なことだ。

記憶の保存は平和の作業、軍縮の一環だ。

歴史の忘却に抗い、声をあげていく。私たちの生存はそれにかかっている。

2025. 10. 21 都生協連に預けてある運動史料 (もんじょ箱 47 箱分) と、倉庫
保管の 85, 77 調査票の原票 (43 箱分) および未整理の書籍・冊子類
(ダンボール約 40 箱分) を、杉並区の大学生協会館に移す

【史資料の現況】

1. 書籍・冊子類

目録はHPに公開 (約 7000 点。冊数、その後の追加点数を考慮すると 2～
3 倍にはなる?)

核関連文献／体験記・手記／調査・研究／被爆者運動史／文学・芸術／学習
と継承 他に、総記・他の戦争被害に関する文献もあり (リスト化未完)

2. 被爆者運動史料 (不定形の史料) 約 7,600 点 (ざっくりした点数) もんじょ箱に、251 箱 (うち未整理の調査原票が 43 箱分)